



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

1992.10.4 No. 3668

第19回定期大会はじまる

「分割・民営化」攻撃10年を検証し、反転攻勢へ闘う方針を

大会速報 第一日目

動労千葉第一九回定期大会が、一〇月三日から、のさか望洋荘において開催され、一日目から活発な討論が展開された。

今大会は、崩壊する「分割・民営化」攻撃十年を検証し、PKO―自衛隊の海外派兵という「派兵下の労働運動」を問うものとして決定的に重要な位置を占めるものとなった。

大会は、開会あいさつのおと、議長に越川代議員(銚子支部)川田代議員(新小岩支部)を選出し、冒頭主催者を代表して中野委員長があいさつに立った。(要旨別掲)

続いて来賓あいさつに入り、県労連センター・広田事務局長、三里塚芝山連合空港反対同盟・北原事務局長(要旨別掲)、船橋市議会議員・中江昌夫氏をはじめ部落解放同盟全国連・労住協・動労水戸そして千葉県下で闘う労働組合の代表の方々から連帯のあいさつを受けた。

三六、営業、出向など 熱心な討論がづく

その後、①一般経過報告、②労働協約・協定締結報告、③会計報告、④会計監査報告の提起のあと、質疑に入り……

(1)、三六協定について、一〇月一日から無協約となっているが、今後の状況・見通しなどはどうか?(幕張)

(2)、三六未締結状態でありながら、助役が勤務終了後も職場に残っている。会社側の考えをただすべきだ。(乗務員分科会)

(3)、三六協定問題は要員問題であり、強制配転者の原職奪還とも結びつけて考えるべきだ。職場集会、アンケートなどを通して意思統一を図ってきた。(勝浦)

(4)、直営店舗の廃止攻撃がかけられ、会社側は「収益性」などを理由としているが、「隔離」場所として活用してきたのであり、仕入れ方法一つをとってみても収益性に準拠していない。新設されるJ-C茂原店にしてみそ

いる。これは現在の腐敗・腐朽した矛盾の解決をアジアへの侵略戦争へ打開の道を求めたということだ。

そして「連合」の結成―労働運動のナショナルセンター―解体から侵略戦争体制がはじまっている。

派兵下の労働運動―闘う路線をはっきりと確立しなければならぬ。

「分割・民営化」攻撃は、十年前からはじまっている。十年間の苦闘・攻撃を検証し、闘う総路線を確立すること、新たな労働運動を創造し、JRに対する反転攻勢の闘いを通して、二一世紀へ向けた闘いの端緒とするものとして今大会があるといっても過言ではない。

反対同盟北原事務局長あいさつ(要旨) 動労千葉のみなさんの闘いが、全国の闘う潮流を創り出していることに心から敬意を表します。

成田シンポー提言の前身は、情理をつくしたが、反対派はのってこない。国益のために早期完成のためには代執行へと進むものとみている。

PKO―自衛隊の海外派兵―侵略と虐殺の逆行を許してはならない。

二期阻止、PKO粉砕へ反戦の旗を上げて闘い抜く決意である。

一〇・一一三里塚現地総決起集会への参加を心から要請したい。

うだ。こんなやり方は絶対に許せない。又、各駅では要員合理化による弊害が出ている。交渉を強めるべきだ。(営業分科会)

(5)、昨年から出向に出ているが、六〇才まで働ける労働条件の確立という観点から、出向先の労働条件ということに重点を置くべきだ。又、出向先との協約で東日本と貨物では労働条件に差がある。問題解決に向けた取り組みが必要だ。(事務分科会)

以上のような活発な質疑のあと、一日目の議事終了後、大会に結集した解雇者の方々から現状報告と決意が一人一人から述べられた。

「解雇撤回の闘いと現場の闘いは一体のものであり、共に頑張る」という決意は、会場出席者全員の胸を強く打った。

全解雇者の奪還へさらに闘いを強めよう!

- 一〇・一一 三里塚現地総決起集会
 - 一〇・一一 自衛隊本隊出兵阻止
 - 一〇・一一 首都総決起集会
- 小牧現地闘争
- 組織の総力をあげて PKO連続闘争へ立ちよう!